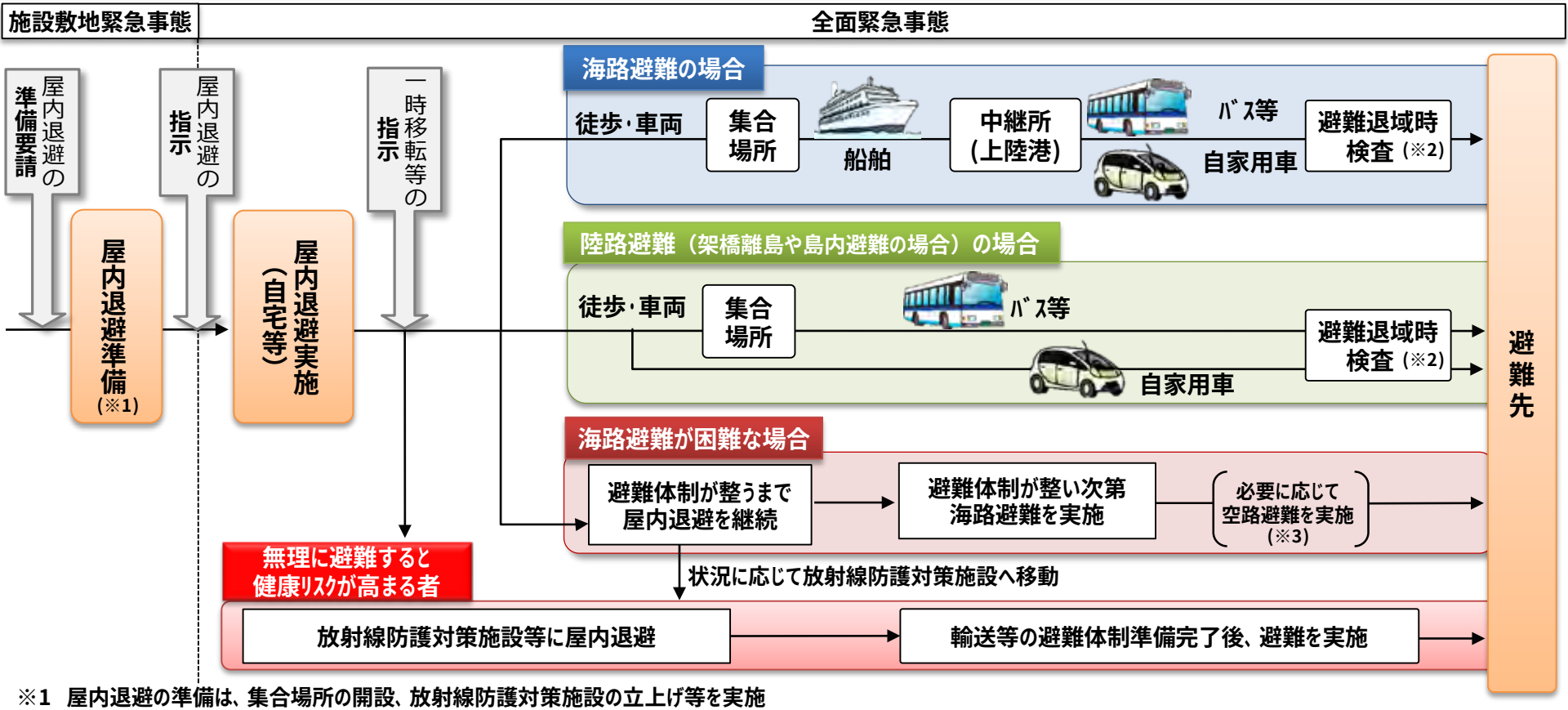
UPZ内の離島における一時移転等の基本フロー

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- 施設敷地緊急事態となった場合は、UPZ内の離島では放射線防護対策施設の立ち上げ等の屋内退避の準備を行うとともに、一時移転等に備えて集合場所の開設準備を行う。
- 全面緊急事態となった場合は、UPZ内の離島の住民は屋内退避を行う。その後、一時移転等を実施することとなった場合は、海路や陸路（架橋された離島や島内避難が可能な場合）により避難を実施。
- 悪天候等により船舶による避難が困難な場合や、無理に避難すると健康ﾘｽｸが高まる住民は、近隣の放射線防護対策施設を含む屋内退避施設に屋内退避を継続し、避難体制が十分に整った段階で一時移転等を実施。

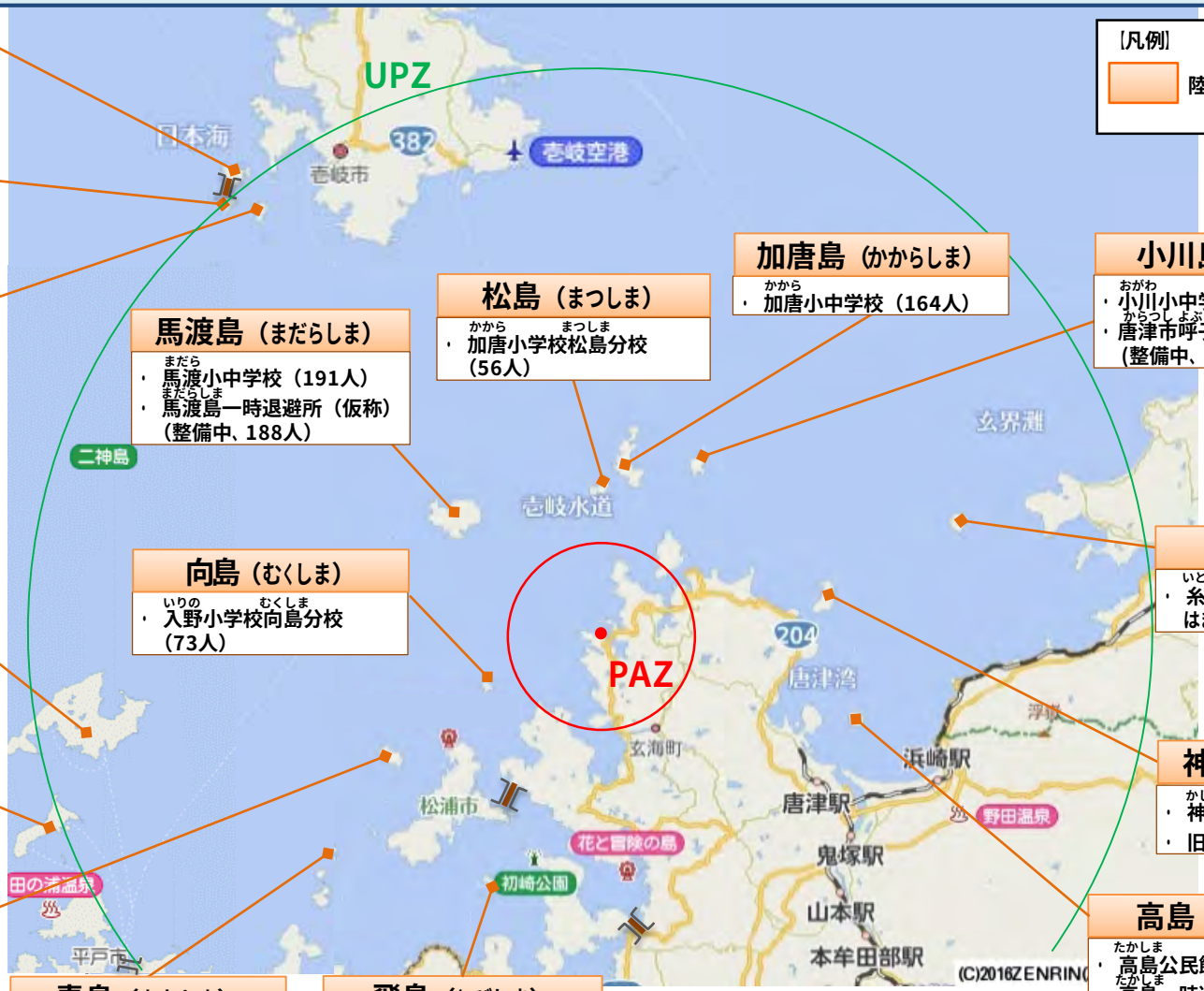


※1　屋内退避の準備は、集合場所の開設、放射線防護対策施設の立上げ等を実施
※2　避難退域時検査場所は、原子力災害対策重点区域の境界周辺から避難所までの避難経路上に設置
※3　空路避難は、各離島における「ﾍﾘﾎﾟｰﾄ」（ﾍﾘ離着陸場として指定されているﾍﾘﾎﾟｰﾄや空港等）、「臨時ﾍﾘﾎﾟｰﾄ」（各県地域防災計画等で「離着陸適地」などとして記載されているｸﾞﾗﾝﾄﾞ等）、「防災離着陸候補地」（過去に訓練や救急活動で使用実績がある場所、また現地調査により条件付きも含めﾍﾘの離着陸が可能とされた場所等）を活用
※4　不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請

UPZ内における離島の放射線防護対策施設の設置状況

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

Ø UPZ内における離島のうち、陸路で避難できない離島については、対象となる住民を収容するための屋内退避施設として、放射線防護対策施設を整備。



［凡例］
陸路避難ができない離島

大島（おおしま）
- 三島小学校体育館（整備中、267人）

長島（ながしま）
- （整備予定、約150人）

原島（はるしま）
- （整備予定、約120人）

馬渡島（まだらしま）
- 馬渡小中学校（191人）
- 馬渡島一時退避所（仮称）（整備中、188人）

松島（まつしま）
- 加唐小学校松島分校（56人）

加唐島（かからしま）
- 加唐小中学校（164人）

小川島（おがわしま）
- 小川小中学校（256人）
- 唐津市呼子交流促進施設（整備中、149人）

向島（むくしま）
- 入野小学校向島分校（73人）

的山大島(あづちおおしま)
- 平戸市立大島中学校（1,200人）

度島（たくしま）
- 平戸市立度島小中学校（800人）

黒島（くろしま）
- 黒島住民センター（65人）

青島（あおしま）
- 青島小中学校（整備中、290人）

飛島（とびしま）
- 飛島住民センター（仮称）（整備中、60人）

姫島（ひめしま）
- 糸島市姫島福祉センターはまゆう（236人）

神集島（かしわじま）
- 神集島公民館（375人）
- 旧神集島小学校（66人）

高島（たかしま）
- 高島公民館（ 219人）
- 高島一時避難所（仮称）（整備中、48人）

UPZ内の離島における初動対応

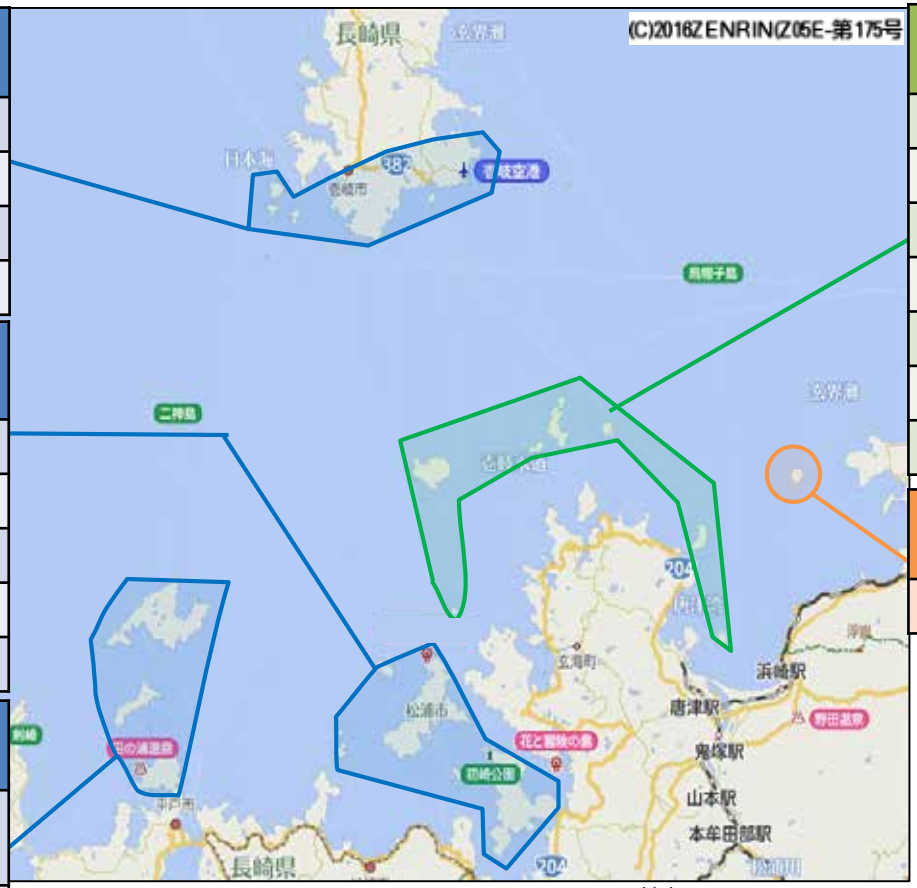
内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- Ø 施設敷地緊急事態が発生した段階で、佐賀県、長崎県、福岡県からの指示により、唐津市、松浦市、平戸市、壱岐市及び糸島市は、市域の離島の自主防災組織及び消防団等に屋内退避の準備指示及び集合場所等の開設を指示。
- Ø 指示を受けた各離島の自主防災組織及び消防団は、離島内の住民に対して屋内退避準備の情報を伝達するとともに、集合場所や放射線防護対策施設等の開設準備等を含めた、屋内退避準備を実施。

長崎県壱岐市	自主防・消防団（組織数）
壱岐島（いきしま）※1	102
大島（おおしま）	2
長島（ながしま）	2
原島（はるしま）	2

長崎県松浦市	自主防・消防団（組織数）
鷹島（たかしま）※1	4
黒島（くろしま）	2
福島（ふくしま）※1	10
飛島（とびしま）	2
青島（あおしま）	2

長崎県平戸市	自主防・消防団（組織数）
的山大島(あづちおおしま) ※1	11
度島（たくしま）	4
平戸島（ひらどしま）	10



佐賀県唐津市	自主防・消防団（組織数）
向島（むくしま）	1
馬渡島（まだらしま）	1
松島（まつしま）	1
加唐島（かからしま）	1
小川島（おがわしま）	1
神集島（かしわじま）	1
高島（たかしま）	2

福岡県糸島市	自主防・消防団（組織数）
姫島（ひめしま）	3

※1 松浦市鷹島、福島、平戸市的山大島、壱岐市壱岐島は、市災害警戒本部又は現地本部（支部）があることから、これらの本部・現地本部（支部）職員が自主防災組織・消防団と連携して初動対応を実施。

UPZ内の離島における住民との情報伝達

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- 唐津市、松浦市、平戸市、壱岐市及び糸島市は、市域の各離島に情報伝達が可能な防災行政無線等のほか、自主防災組織連絡網、消防団による広報巡回、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等を活用し情報を伝達。
- 離島における自主防災組織や消防団は、住民への情報伝達や避難者の状況や避難誘導体制等に関する情報共有を行うため、各離島に配備している携帯端末、衛星電話、各地区の防災行政無線屋外拡声子局に設置された双方向通信機を活用。
- 離島における医療機関、社会福祉施設、学校･保育所等への情報伝達は、関係県及び関係市が連携して実施。
- 離島周辺の船舶には、関係市における漁業無線等の業務用移動通信等を活用し情報を伝達。

長崎県壱岐市

- 壱岐島の対象区域に防災行政無線屋外拡声子局を設置（計103か所）するとともに、全戸に告知放送受信機を配布。
- 大島、長島、原島の対象区域（全域）に防災行政無線屋外拡声子局を設置（計3か所）

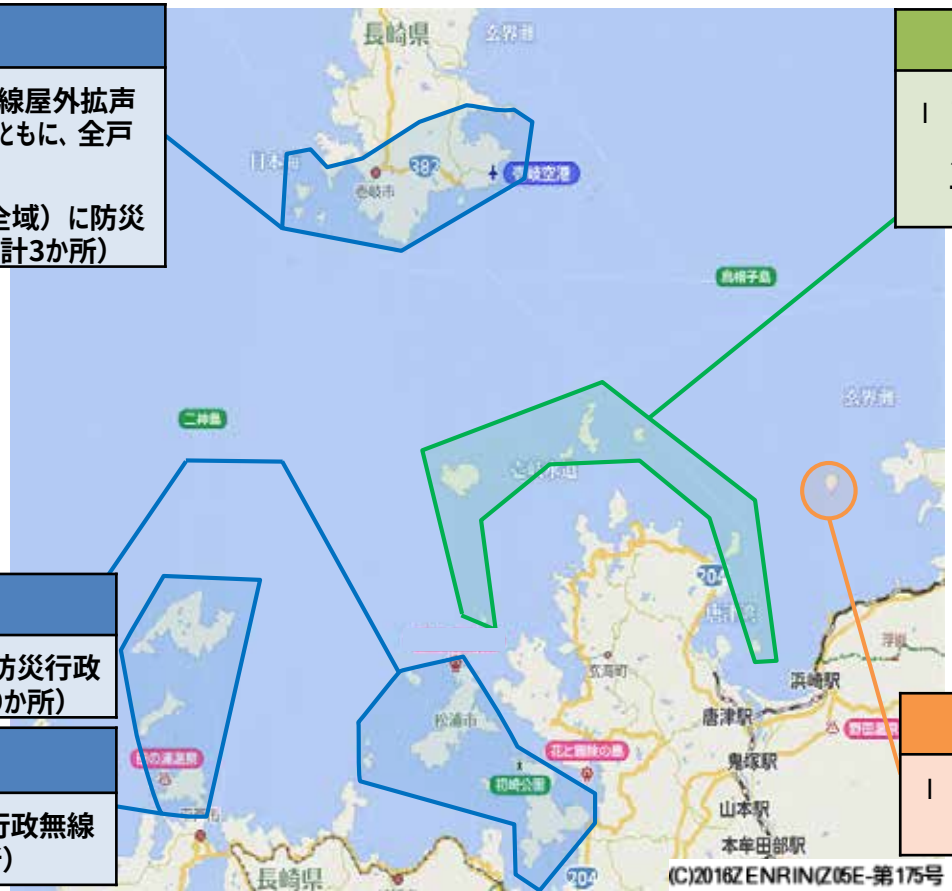
（告知放送受信機）

長崎県松浦市

- 鷹島、黒島、福島、飛島、青島に防災行政無線屋外拡声子局を設置（計29か所）

長崎県平戸市

- 平戸島、的山大島、度島に防災行政無線屋外拡声子局を設置（計31か所）



佐賀県唐津市

- 高島、神集島、小川島、加唐島、松島、馬渡島、向島に防災行政無線屋外拡声子局を設置（計10か所）

（屋外拡声子局）

福岡県糸島市

- 姫島に防災行政無線屋外拡声子局を設置(1か所)

高島（佐賀県唐津市）における防護措置

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- 唐津市は屋内退避や一時移転等の指示が出た場合、住民に対して防災行政無線等を活用するほか、自主防災組織、消防団等を通じて必要な情報を伝達。
- 一時移転等の指示が出た場合、住民は、集合場所である高島公民館等まで徒歩又は車両で移動した後、高島港から佐賀県、唐津市が確保する船舶により唐津港まで移動。その後、佐賀県、唐津市が確保するバス等により避難先となる神埼市内の神埼市立西郷小学校まで移動。なお、悪天候等により船舶による避難が困難な場合や無理に避難すると健康リスクが高まる住民は、放射線防護対策施設である高島公民館、高島一時退避所（仮称）に屋内退避。
- 屋内退避の実施に必要となる生活物資等については、高島公民館、高島一時退避所（仮称）に備蓄。

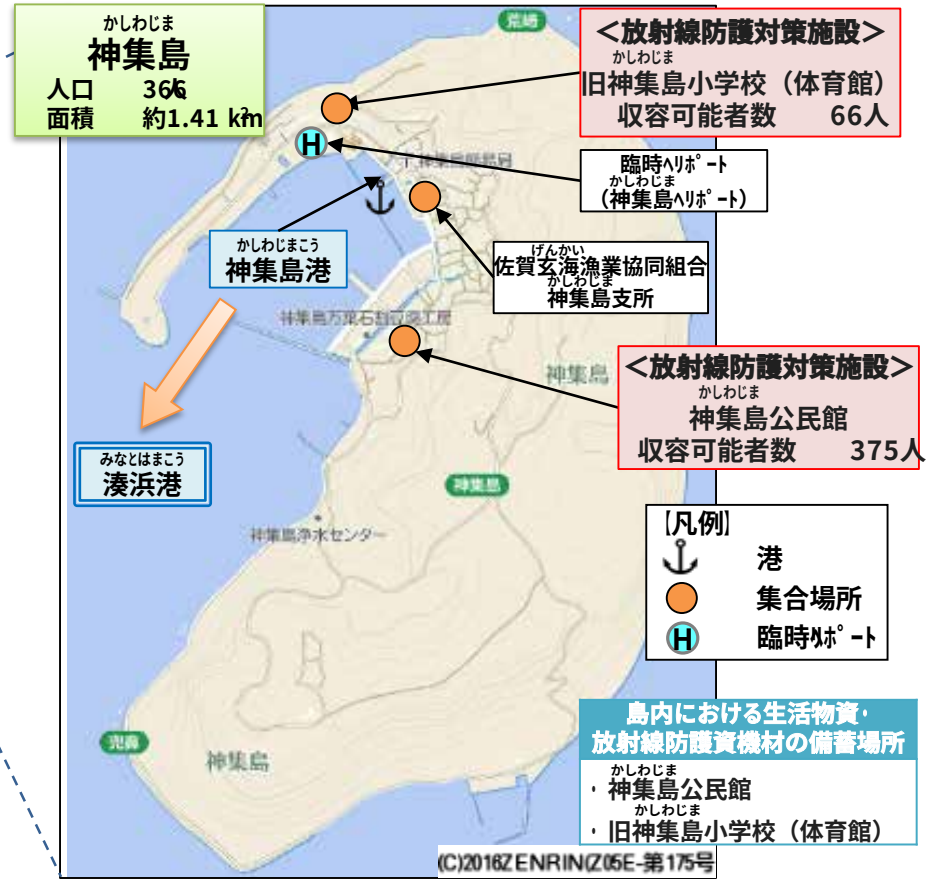
避難先　神埼市
（神埼市立西郷小学校）

※不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、　実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請。

神集島（佐賀県唐津市）における防護措置

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- 唐津市は屋内退避や一時移転等の指示が出た場合、対象となる住民に対して防災行政無線等を活用するほか、自主防災組織、消防団等を通じて必要な情報を伝達。
- 一時移転等の指示が出た場合、住民は、集合場所である、神集島公民館等まで徒歩又は車両で移動した後、神集島港から佐賀県、唐津市が確保する船舶により湊浜港まで移動。その後、佐賀県、唐津市が確保するﾊﾞｽ等により避難先となる多久市内の多久市立中央小学校まで移動。なお、悪天候等により船舶による避難が困難な場合や無理に避難すると健康ﾘｽｸが高まる住民は、放射線防護対策施設である神集島公民館、旧神集島小学校（体育館）に屋内退避。
- 屋内退避の実施に必要となる生活物資等については、神集島公民館、旧神集島小学校に備蓄。



※不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、　実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請。

小川島（佐賀県唐津市）における防護措置

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- 唐津市は屋内退避や一時移転等の指示が出た場合、対象となる住民に対して防災行政無線等を活用するほか、消防団等を通じて必要な情報を伝達。
- 一時移転等の指示が出た場合、住民は、集合場所である小川小中学校等まで徒歩又は車両で移動した後、小川島港から佐賀県、唐津市が確保する船舶により唐津港まで移動。その後、佐賀県、唐津市が確保するﾊﾞｽ等により避難先となる小城市内の芦刈文化体育館まで移動。なお、悪天候等により船舶による避難が困難な場合や無理に避難すると健康ﾘｽｸが高まる住民は、放射線防護対策施設である小川小中学校（校舎･体育館）、唐津市呼子交流促進施設に屋内退避。
- 屋内退避の実施に必要となる生活物資等については、小川小中学校、唐津市呼子交流促進施設に備蓄。

＜参考＞
小川島港～唐津港
所要時間約50分(見込)

＜参考＞定期航路
小川島港～呼子港
（定員95人）
標準所要時間約20分

（基本は唐津港へ避難を実施
状況に応じて呼子港も使用）

避難先　小城市
（芦刈文化体育館）

小川島
人口　393人
面積　0.92 ㎢

島内における生活物資・放射線防護資機材の備蓄場所
- 小川小中学校（校舎･体育館）
- 唐津市呼子交流促進施設※整備中

＜放射線防護対策施設＞
唐津市呼子交流促進施設※整備中
収容可能者数　140人

臨時ﾍﾘﾎﾟｰﾄ
（小川島ﾍﾘﾎﾟｰﾄ）

＜放射線防護対策施設＞
小川小中学校（校舎･体育館）
収容可能者数　256人

小川島漁村ｾﾝﾀｰ

小川島港

唐津港

【凡例】
- 港
- 集合場所
- 臨時ﾍﾘﾎﾟｰﾄ

※不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、　実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請。

加唐島（佐賀県唐津市）における防護措置

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

- 唐津市は屋内退避や一時移転等の指示が出た場合、対象となる住民に対して防災行政無線等を活用するほか、消防団等を通じて必要な情報を伝達。
- 一時移転等の指示が出た場合、住民は、集合場所である加唐小中学校まで徒歩又は車両で移動した後、加唐島港、大泊港から佐賀県、唐津市が確保する船舶により唐津港まで移動。その後、佐賀県、唐津市が確保するﾊﾞｽ等により避難先となる白石町内の佐賀県立白石高等学校まで移動。なお、悪天候等により船舶による避難が困難な場合や無理に避難すると健康ﾘｽｸが高まる住民は、放射線防護対策施設である加唐小中学校（校舎･体育館）に屋内退避。
- 屋内退避の実施に必要となる生活物資等については、加唐小中学校に生活物資等を備蓄。

※不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、　実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請。